

〈公開シンポジウム〉

『住山記』と總持寺教団の展開

― 教団史研究の一級資料・その紹介と研究の現状 ―

挨拶

鶴見大学学長・仏教文化研究所長 木村 清孝

今日は、鶴見大学仏教文化研究所主催の公開シンポジウムにご参加いただき、まことにありがとうございます。本年度のシンポジウムは、『住山記』と總持寺教団の展開―教団史研究の一級資料・その紹介と研究の現状―というタイトルでお二人の先生にご講演いただき、その後、私を交えてシンポジウムを進めることになりました。

今回はとても地味な主題でございますが、こうした研究の積み重ねが仏教学・仏教史の研究の王道を行くものです。ご来場の皆様にはその点をご理解いただくとともに、この成果が總持寺教団の歴史的な実態を正しく把握し、ご本山・總持寺の今後一層の発展の礎となることをご期待いただきたいと思います。また、平成二十三年には、ご本山はご移転百年を迎えます。本研究所も、その記念の諸行事の円成にさまざまな形で協力申し上げたく存じております。今後一層のご支援をいただけますよう、よろしくお願い致します。